

Ⅱ 平成29年度「文化財保存修復の大学教育・教育活動に関する研究会」 ●開催報告

澤田正昭 SAWADA, Masaaki／文化財保存修復研究センター長・教授

平成29年度「文化財保存修復の大学教育・教育活動に関する研究会」を、平成30年3月16日（金曜日）に、関西大学国際文化財・文化研究センターと共催で、開催した。

文化財保存修復担当の教員が全国から参加され、文化財保存修復という教育の在り方に関する情報交換を行った。文化財の活用が強調される今日、文化財の保存修理や教育に携わる者として、念頭におくべき重要事項であることを再確認した次第であった。

共 催：関西大学国際文化財・文化研究センター、
東北芸術工科大学・文化財保存修復研究センター

開催日：平成30年3月16日（金曜日）13：00～
17：00

会 場：東北芸術工科大学本館6階会議室

プログラム

- 13：00－14：00 東北芸術工科大学文化財保存修復学科および文化財保存研究センター紹介および施設見学
（米村祥央、東北芸術工科大学）
- 14：00－14：20 開催趣旨の説明
（澤田正昭、東北芸術工科大学）
- 14：20－15：00 基調講演「文科省からみた大学教育の現状と文化財教育の課題」（松坂浩史・文化庁地域文化創生本部事務局長）
- 15：00－15：15 休憩
- 15：20－15：45 基調報告「文化財保存修復教育の実態調査と課題」（松井敏也・筑波大学・世界遺産専攻教授）
- 15：45－17：00 総合討論
- 17：00 閉会挨拶

当日のプログラムとしては、まず、東北芸術工科大学の米村准教授が、東北芸術工科大学の保存修復学科での授業や文化財保存修復研究センターの学生教育の関わりなどについて説明を行い、そ

の後、文化財保存修復研究センターの見学を行った。

次に、会議に先立って、文化財保存修復研究センター長の澤田より本研究会の開催趣旨に関する説明を行った。ここでは、グローバル化の中で現代科学との協働、ある意味での文理融合型の研究が進められたことと相俟って教育内容が高度化し、守備範囲の広い人材育成が進められたこと。さらには、文化遺産・遺跡のマネジメントを専門にする高度専門技術者を育成することで、就学者の活躍の場を拡充することの重要性などが述べられた。

次に、文化庁地域文化創生本部事務局長の松坂浩史氏から、大学に迫る様々な改革課題について具体的な説明があった。特にフランスにおける大学のシステムと日本のシステムの違いについての説明は、大変参考になるものであった。また、松坂氏の所属する地域文化創成本部の取り組みに関して、文化庁の機能の強化のための活動等について説明がなされた。



写真1. 文化庁松坂浩史氏の講演の様子

次に、筑波大学・世界遺産専攻教授の松井敏也氏から、文化財保存修復教育の実態調査と課題というテーマで講演が行われた。松井敏也氏は、以前、当大学にも勤務しておられた経験がある。ここでは、筑波大学での文化財保存修復に関する教育を中心に、課題解決のための、教育制度、教育内容、教育環境などの改革の必要性が述べられた。

総合討論では、参加者がそれぞれの大学での文化財保存修復に関する問題点などを述べ、短い時間ではあったが、大変有意義な情報交換ができたと考えられる。本テーマでの研究会は、次年度も本学で開催する予定である。